

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
東京衛生学園専門学校		昭和52年6月10日		後藤修司		〒143-0016 東京都大田区大森北4-1-1 (電話) 03-3763-6621																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人後藤学園		昭和48年12月12日		理事長 後藤修司		〒238-0052 神奈川県横浜須賀市佐野町2-34 (電話) 045-850-6310																									
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																								
医療	医療専門課程		東洋医療総合学科1部			平成7年1月23日																									
学科の目的		本校は学校教育法及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に基づき、学生に対して専門教育を行い、社会人としての教養を深めることにより、人格の涵養に努め国民の保健医療福祉に貢献し得る専門職の育成を目的とする。																													
認定年月日		平成 29年 2月 24日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																							
3年	昼間	2705時間	1430時間		240時間	90時間	0時間	945時間																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																					
90人		86人		0人		8人		27人		35人																					
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は当該授業科目の評価(試験・学習状況・学習報告・課題等)により行う。評価は100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。また、課題等の方法をもって評価を行う場合はP・Dの評語で表示しPを合格、Dを不合格とする。																								
長期休み		■学年始:4月4日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月1日			卒業・進級条件		本校が指定する科目(講義・演習・実習)をすべて履修しなければならない。但し学則で定める既修得単位の認定科目は除外する。また、未修得の科目がある場合には再履修をしなければならない。未修得の科目に年度基礎科目がある場合、次年度のカリキュラムを履修することができない。所定の単位を全て修得することを卒業要件の原則とする。																								
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話ならびにメールでの連絡。保証人への連絡ならびに連係。個人面談、補習の実施等			課外活動		■課外活動の種類 施設見学(治療院、高齢者施設、病院、工場見学など)  ■サークル活動: 無																								
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) あはき治療院、鍼灸治療院、スポーツ施設等 ■就職指導内容 就職セミナー(夏季)、就職ガイダンス、個人面談  ■卒業者数 : 30 人 ■就職希望者数 : 28 人 ■就職者数 : 28 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93 % ■その他 ・進学者数: 1人  (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>あん摩マッサージ指圧師 国家試験受験資格</td><td>②</td><td>30人</td><td>30人</td></tr><tr><td>はり師 国家試験受験資格</td><td>②</td><td>30人</td><td>29人</td></tr><tr><td>きゅう師 国家試験受験資格</td><td>②</td><td>30人</td><td>29人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	あん摩マッサージ指圧師 国家試験受験資格	②	30人	30人	はり師 国家試験受験資格	②	30人	29人	きゅう師 国家試験受験資格	②	30人	29人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
あん摩マッサージ指圧師 国家試験受験資格	②	30人	30人																												
はり師 国家試験受験資格	②	30人	29人																												
きゅう師 国家試験受験資格	②	30人	29人																												
中途退学の現状		■中途退学者 3 名 平成28年4月1日時点において、在学者89名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者86名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、家庭の事情  ■中退防止・中退者支援のための取組 ・1年次早期から小テストを複数実施することにより、学習に問題のある学生の早期把握、早期対応を行っている。 ・3年次の実技試験を見学することで、必要となる技能、態度等を具体的にイメージできるようにしている。 ・卒業後のイメージを掴むため、1年次と3年時に体験学習として提携治療院での治療体験を行っている。 ・学生全員を対象とした個人面談を実施し、学校生活上の悩みや問題等を把握してアドバイスを行っている。 ・必要に応じてカウンセリングルームとの連携を行っている。			■中退率 10 %																										
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※指定校推薦入試の入学者に対して、授業料の一部を免除 採学学年貸与奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※1年生9名、2年生12名																													
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 私立専門学校等評価研究機構、平成28年3月31日、 <a href="http://www.teg.ac.jp/about/public_information/">http://www.teg.ac.jp/about/public_information/</a>																													
当該学科のホームページURL		<a href="http://www.teg.ac.jp/course/oriental_medical/">http://www.teg.ac.jp/course/oriental_medical/</a>																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

東洋医療総合学科では豊かな人間性を育み、東洋医療に必要な知識・技術・態度を習得し、社会に貢献できる「あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師」を育成する事を目的としている。具体的には、①社会人としての教養を深め、人間を尊重する態度を身につける。②専門的知識・技術・態度を習得し、東洋医療を実践できる能力を養う。③保健医療福祉チームの一員として、その責任を果たせる能力を養う。④専門職業人としての自覚を持ち、常に自らを向上させる態度を身につける事が目標となる。

この目標を達成するために、当学科では関係法令「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指導要領」を遵守しながら教育課程の編成を実施してきた。しかし、多様化する社会のニーズや医療・福祉行政の動向などに対応した教育課程の編成も重要となる。そこで、関連する企業等で活躍されている委員から専門家の立場でアドバイスを頂き、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施できるように、授業内容や方法の改善及び工夫等に向けた様々な取組を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・教育課程編成委員会をリハビリテーション学科と東洋医療総合学科に配置し、各学科の教育内容について意見を交換しながら教育の質の向上に努める。また、教育課程編成委員会で検討された内容は該当学科内で回議し学校長に報告され、授業内容・方法の改善・工夫に繋げ教育課程の編成に反映する。

・委員会で検討された内容で専攻分野を越えて活用が可能なものは、自己点検・評価委員会で情報共有を図り学校全体の教育の質向上に繋げる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
河原 保裕	公益社団法人 埼玉県鍼灸師会 会長	平成29年7月7日～ 平成30年3月31日	①
大浦 宏勝	公益財団法人 杉山検校遺徳顕彰会 理事	平成29年7月7日～ 平成30年3月32日	②
植松 秀彰	NPO法人 エール非常勤講師	平成29年7月7日～ 平成30年3月33日	③
鳥谷部 創治	神奈川県勤労者医療生活協同組合 港町診療所付属港町鍼灸院 院長	平成29年7月7日～ 平成30年3月34日	③
森島 健	東京衛生学園専門学校 教務部 部長	平成29年7月7日～ 平成30年3月35日	
波田 康	東京衛生学園専門学校 東洋医療総合学科 学科長	平成29年7月7日～ 平成30年3月36日	
川井 孝治	東京衛生学園専門学校 東洋医療総合学科 学科長補佐	平成29年7月7日～ 平成30年3月37日	
高橋 大希	東京衛生学園専門学校 東洋医療総合学科 専任教員	平成29年7月7日～ 平成30年3月38日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会は原則として年2回開催する。また、委員長が必要と認めたときは臨時に委員会を開催できる。

(開催日時)

第1回 平成29年8月7日 19:00～21:00

第2回 平成29年12月18日 19:00～21:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・平成28年度に実施した卒業生アンケートの回収率が低いとの指摘があった。そのため、今年度は催促の連絡を入れるなど回収率向上に向けた対応をした。

・昨年と同様に医療倫理や死生観について考える機会を、1年次の医療人間学にて看護学科教員から命の尊厳について取入れる。また、2年次の医療面接では在宅ホスピスで最後の看取り活動をしている医療施設院長の記事を紹介し、死生観についてクラス全体で考える授業と昨年と同様に取り入れる。

・輪読などの身体を使って知識を身に着ける方法として、2年次の経絡経穴概論の試験で声を出して経穴名を順番に暗唱し確認する作業を昨年と同様に実施する。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

鍼灸業界にて評価を得ている業団役員の治療院を選定し、企業担当者（院長）と連携しながら現場で求められる臨床能力を実技実習を通じて指導する。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

・整形外科領域の代表的な疾患について、実際の臨床において病態把握、インフォームドコンセントを行い、施術、指導・養生ができるように指導する。また、卒後即戦力となる治療家を育成するための知識・技術・態度について教授と助言を頂く。  
・実習修了時には企業担当者（院長）による生徒の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
鍼灸応用実技Ⅰ （整形外科領域）	臨床で遭遇しやすい整形外科疾患の治療について、現代医学的なアプローチを系統的に疾患別に学習する。また、身体診察法、病態生理学、臨床医学総論や運動学での学習項目を統合化し、実際の臨床でどの様に应用するかを習得する。	浦山鍼灸院

## 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師に係る専門医療分野に関して、実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体、教職員の専門性の維持・向上を目的とした研修等を行う職能団体（資格者団体、養成施設協会等）、関連学会や学術機関等に教職員を派遣し、学内の業務に従事しているだけでは得ることができない知識・技能の更新、専攻分野に関する最新の知識・技能、関連業界の動向把握、指導力の修得・向上のための教育技法の獲得を目的とする。

### (2)研修等の実績

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

・平成28年6月10日（金）～12日（日）（公社）全日本鍼灸学会 学術大会  
・平成28年8月2日（火）、3日（水）（公社）東洋療法学校協会 教員研修会  
・平成28年11月5日（土）、6日（日） 世界鍼灸学会大会連合会 学術大会

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

・平成28年4月1日（水） 学校法人後藤学園 全校教職員研修（レジリエンス研修）  
・平成28年8月1日（月） 業務の効率化研修会参加（主任・補佐研修） 神奈川衛生学園専門学校  
・平成28年5月21日（土） 東京衛生学園管理職研修（主任・補佐研修） 株式会社ビジネスコンサルタント  
・平成28年12月11日（日） 東京衛生学園臨床教育専攻科教員セミナー（学生支援の仕組みを考える～北九州市立大学）

### (3)研修等の計画

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

・平成29年6月10日（土）～11日（日）（公社）全日本鍼灸学会 学術大会  
・平成29年8月3日（木）～4日（金）（公社）東洋療法学校協会 教員研修会  
・平成29年10月14日（土）～15日（日） 日本伝統鍼灸学会 学術大会

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

・平成29年4月3日（月） 学校法人後藤学園 全校教職員研修（対人対応力研修）  
・平成29年10月21日（土） 学校法人後藤学園 ライフエンス学術大会（対人対応力研修）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

・学校が行った自己点検評価の結果について学校関係者による外部評価をおこない、評価結果の客観性・透明性を高める。また、東京衛生学園専門学校と関係の深い関連企業・機関・施設の代表者、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。  
・学校関係者評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき「教育理念・目的・育成人材像」、「学校運営」、「教育活動（目標の設定等、教育方法・評価等、資格試験、教職員）」、「学修成果」、「学生支援」、「教育環境」、「学生の受入れ募集」、「財務」、「法令等の遵守」、「社会貢献・地域貢献」、「国際交流」の11項目ごとに自己点検・評価に対する外部評価を基本とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育活動や学習成果の評価コメントとして、全学科で卒業生を対象としたアンケート調査の実施を望むという意見を受け、昨年度から卒業生と就職先関係者へのアンケート調査を実施した。その結果、卒業生アンケートの回収率がどの学科も低かったため、今年度は回収率を向上を図る対策を実施する。また、退学率減少に向けての取組みとして、今年度は学校の重点目標に退学者低減を掲げプロジェクト委員会を発足し、要因分析と様々な対応策について検討・実施した。

平成29年6月14日現在

名 前	所 属	任期	種別
北目 茂	公益社団法人 東京都理学療法士協会 監事	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(2年)	企業・団体 等
菊地 貴彦	大田区鍼灸師会 会長	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(2年)	企業・団体 等
長谷川 美枝子	医療法人社団 青葉会 牧野記念病院 看護部長	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(3年)	企業・団体 等
長谷川 誠	リハビリテーション学科 同窓会 厚生部 部長	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(4年)	卒業生
榮島 英剛	東洋医療系学科 同窓会 理事	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(5年)	卒業生
森田 正子	看護学科 同窓会 副会長	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(6年)	卒業生
加藤 一人	PNF研究所株式会社 代表取締役	平成29年5月8日～ 平成31年3月31日(7年)	卒業生
増山 健太郎	増山治療院 院長	平成28年4月26日～ 平成30年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 平成29年6月14日

URL:[http://www.teg.ac.jp/about/public\\_information/](http://www.teg.ac.jp/about/public_information/)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

東京衛生学園学校関係者への理解を深め連携協力を推進する目的から、学校の教育目標・理念、各学科のカリキュラム、就職支援・キャリア教育、学習支援、自己点検自己評価、その他の学校運営に関する状況等の情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、校長名、所在地、沿革と歴史（学校ホームページ、入学案内、学生便覧）
(2)各学科等の教育	理念、教育方針、カリキュラム（学校ホームページ、入学案内、シラバス）
(3)教職員	教職員組織、学科別教職員一覧(氏名、役職)（学校ホームページ）
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職実績・キャリア教育（学校ホームページ、入学案内）
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組（学校ホームページ、入学案内）
(6)学生の生活支援	学生支援への取組（学校ホームページ、入学案内）
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い（学校ホームページ、募集要項）
(8)学校の財務	消費収支の状況（学校ホームページ）
(9)学校評価	第三者評価、自己点検自己評価、学校関係者評価（学校ホームページ）
(10)国際連携の状況	海外の学校との交流（学校ホームページ、入学案内）
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.teg.ac.jp/>

# 授業科目等の概要

(医療専門課程 東洋医療総合学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報処理	鍼灸臨床においても患者情報の整理や、症例報告など使用頻度は高い。そこで、パソコンを使いながら「何ができるのか」「何が便利なのか」「何が足りないのか」等、実践を通して学習する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			東洋医学史	中国伝統医学の歴史についての理解を深めることを中心に、医学の歴史的変遷とその発展をより深く認識することを目的とする。	2 前	30	2	○			○		○		
○			観察と記録	鍼灸あん摩マッサージ指圧や、これに関連する様々な事象について観察し、これを分析しながら鍼灸の特徴や理論体系などについての認識を深める。	2 前	30	2		○		○		○		
○			漢薬概論	一般的に「漢方薬」と言われる生薬の概念を学び、「中薬学」と「方剤学」を組み合わせる総合的に学習する。	3 前	30	2	○			○		○		
○			医古文基礎	医古文というものの必要性和その価値を認識することを目標とし、漢字、語法、訓詁学、版本と校勘、修辞学、音韻学などの理解を深める。	2 後	15	1	○			○		○		
○			臨床心理学	臨床心理学では心をどのように捉えてきたのか、自分と他者との関係をどう理解するのか、心理的援助とは何か、などを理解し、対人援助において必要な臨床心理学的態度の習得を目的とする。	1 後	30	2	○			○			○	
○			保健体育Ⅰ	自分自身の体について知り、生活習慣病予防のための様々な運動を実践する。また、落ち着いて正しい応急手当が出来るように基本的な救急法について学ぶ。	1 前	15	1		○		○			○	
○			保健体育Ⅱ	テーピング技術の基本となる下肢の関節へのテクニックを中心に履修し、あわせてテーピングの特性について理解を深める。	3 後	15	1		○		○			○	
○			医療人間学	「心ある、そして考える医療人」としての態度・習慣の醸成のため、3年間で学んでいく内容や他職種について知り、医療人としての視野を広げる基礎を養う。	1 前	30	2	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅰ	医学を学ぶ上での基礎となる人体の構造と機能について、各器官系の構成や働きなどの概略を理解することにより、今後の学習を理解する上での基盤を構築する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			人体の構造と機能Ⅱ	あはき臨床を患者さんに実践するにあたり最も必要な基礎知識である運動器系・神経系の構造と機能を学ぶ。	1 通	180	6	○			○		○		

○		人体の構造と機能Ⅲ	あはき臨床における患者さんの病態を把握する上で必要とされる基礎知識である、人体の構造と機能について学ぶ。	1通	120	4	○			○			○	
○		人体の構造と機能Ⅳ	あはき臨床で遭遇しやすい主要症候の病態生理を理解する上で必要とされる人体の構造と機能の内容に関しての理解を深める。	2前	30	1	○			○		○		
○		運動学	人体の構造や機能について履修した内容を生かし、更に関節の構造を学習することにより、正常な関節運動の基礎を理解する。また姿勢についての概要を理解する。	1後	30	1	○			○		○		
○		衛生学・公衆衛生学	健康の概念を理解し、その成立条件や増進のための生活を学びながら、健康についての多方面に渡る知識を養う。	3前	40	2	○			○		○		
○		病理学概論	人体に生ずる病的な状態、すなわち病気（疾病）の本体を追求し、形態学的・機能的な変化について学習する。	2前	30	1	○			○		○		
○		病態生理学	日常臨床で遭遇しやすい主要な症候（症状）に関して、どのような病態（メカニズム）で起こるかを学習する。また、鑑別のポイントについて学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
○		臨床医学総論	患者の状態を把握するために必要な現代医学的診察法、検査法に関する知識を学習する。また、対象となる病状や疾病の判断、各治療の適応・不適応の判断、適切で確実な施術方法を定める能力を育成する。	2通	60	2	○			○			○	
○		リハビリテーション医学	リハビリテーションの理念や障害のとらえ方とともに、代表的な疾患についてのリハビリテーションアプローチについて学ぶ。	3前	30	1	○			○		○		
○		臨床医学各論Ⅰ	臨床医学各論Ⅰでは主に整形外科疾患に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得する。	2後	30	1	○			○		○		
○		臨床医学各論Ⅱ	臨床医学各論Ⅱでは主に内科疾患に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得する。	3前	60	2	○			○			○	
○		臨床医学各論Ⅲ	臨床医学各論Ⅲでは主に神経疾患・外科・麻酔科に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得する。	3後	60	2	○			○			○	
○		医療概論	我が国の医療、保健、福祉の概要を学ぶことで、あはき師に求められる医療人としての姿勢、およびあはき師が活躍していくべき分野について考えることができる。	3前	20	1	○			○		○		
○		関係法規	将来あはき師として業務に従事する上で必要な法律・関係法規等の解釈とそれらに関係する事例などを学習し、あはき法および関係法規について修得することを目標とする。	3後	20	1	○			○		○		
○		東洋医学概論	東洋医学の概念を学び、それを医療において実践する上での知識的基盤を構築する。	1前	60	2	○			○		○		



○		中医弁証論治 Ⅰ	証を決定するための手順を理解し、基本的な病証に対する弁証を修得する。	1 後	30	1	○			○		○		
○		中医弁証論治 Ⅱ	証決定の手順・方法を学習し、中医学的な視点から病態分析ができ自分の言葉で説明することができる。また弁証結果から基本的な治法が導き出せるようにし、弁証論治によって患者さんの全体像を把握することができる。	2 前	30	1	○			○			○	
○		あはき基礎学	鍼、灸、あん摩マッサージ指圧の現代社会に置ける位置付けを理解し、施術目標や意義を明確化するとともに、施術を行う上で必要となる基本知識を理解する。	2 前 後	30	2	○			○		○		
○		あはき理論	あはき刺激に対する種々の生体反応を理解し、あはき治療の特徴や合目的性について科学的に捉える習慣を身につける。	2 後	40	2	○			○		○		
○		経絡経穴概論 Ⅰ	鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、十四経脈の体表流注と所属の経穴の名称および部位について学習する。	1 後	90	3	○			○			○	
○		経絡経穴概論 Ⅱ	鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、その意義と経絡流注および経穴の部位と作用、各経絡所属の経穴の名称および部位について学習する。	2 前	30	1	○			○		○		
○		身体診察法	鍼灸の臨床で遭遇する、徴候や病態を把握するために行なう身体診察法を適切に行なう能力を身につける。	2 前	60	2		○		○		○		
○		臨床経穴学	経絡経穴概論の内容を再確認し、臨床上よく治療に使われる60～80穴について、東洋医学的なとらえ方や臨床応用の仕方、配穴の仕方、古来からの経験則などについて学習する。	2 後	30	1	○			○		○		
○		東洋医学臨床 論Ⅰ	主要症候について系統別角度からその診察の仕方とポイント、鑑別のポイント、治療方針の定め方、治療方針にもとづく選穴配穴と処方決定、補瀉手技の決定について学習を行う。	2 後	20	1	○			○			○	
○		東洋医学臨床 論Ⅱ	主要症候について症例を提示しながら、その診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療方針の定め方、治療方針にもとづく選穴、配穴と補瀉手技の決定についてトレーニングを行う。	3 前	40	2	○			○			○	
○		東洋医学臨床 論Ⅲ	東洋医学・西洋医学の様々な科目で学んだ考え方、知識を統合化する必要があるのが東洋医学臨床論である。近年の国家試験で問われる内容を中心に、知識の結び付けを図る。	3 前	20	1	○			○		○		
○		医療面接	良好な患者－医療者関係を構築するために必要なコミュニケーション能力を身につける。また、医療面接に関する基本的な知識・技術・態度を多くのロールプレイを通じ身につけることで豊かな臨床能力を育成することを目標とする。	2 後	30	1		○		○		○		
○		社会あはき学 (地域医療学)	地域医療の理念を理解し、その活動の枠組みを学習し、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師ができる実践活動を考察することを目標とする。	3 後	30	2	○			○			○	
○		鍼灸基礎実技 Ⅰ	鍼、灸実技に関する基本的な技術と知識を修得し、施術を安全かつ確実に行える能力・態度を身に付けることを目標とする。	1 通	180	4			○	○		○		

○		鍼灸基礎実技Ⅱ	鍼灸基礎実技Ⅰで習得した技術を元に、治療の基本となる要穴や常用穴に対して的確な取穴と安全な刺鍼・施灸が行えることを目的とする。また特殊鍼灸法も含め様々な治療技術を修得する。	2通	180	4			○	○		○		
○		鍼灸基礎実技Ⅲ	3年次は臨床実習において実際に患者に接することで、自分の基礎力を再確認することとなる。そこで、改めてこれまで学習してきた刺鍼・施灸の基礎を確認し、臨床に沿った形式で基礎技術の向上を目的とする。	3前	45	1			○	○		○		
○		鍼灸応用実技Ⅰ（整形外科領域）	臨床で遭遇しやすい整形外科疾患の治療について、現代医学的なアプローチを系統的に疾患別に学習する。また、身体診察法、病態生理学、臨床医学総論や運動学での学習項目を統合化し、実際の臨床でどの様に応用するかを習得する。	2後	45	1			○	○			○	○
○		鍼灸応用実技Ⅱ（伝統鍼灸）	日本の鍼灸には多くの治療法が存在するが、主に4つの治療法に触れることで、卒後の臨床スタイルの参考とし、柔軟な発想と幅広い視野を養うことを目標とする。	3前	90	2			○	○		○		
○		鍼灸応用実技Ⅲ（中医学）	臨床の現場に近い形で、東洋医学による診察・診断・治療ができるようになり、また自分の診断結果や治療内容について説明することができる。	3後	90	2			○	○			○	
○		あん摩・指圧基礎実技Ⅰ	あん摩、指圧の各々の基本的技術を修得し、主要な部位に安全かつ確実に施術が行える能力と臨床家としてふさわしい態度を身につけることを目標とする。	1通	90	2			○	○		○		
○		あん摩・指圧基礎実技Ⅱ	1年次に学習した基礎的技術を踏まえてそれぞれの全身施術を学び、患者や部位の違いによる施術の違いを修得し、かつ実践できる事を目標とする。	2通	90	2			○	○		○		
○		マッサージ基礎実技	マッサージの基本的技術を修得し、安全かつ確実に施術が行える能力・態度を身につける。	2後	45	1			○	○		○		
○		あん摩マッサージ指圧応用実技	1・2年次に習得した、あま指の基本施術を応用し全身施術を行える技術を養う。さらに、多くの方法が存在する徒手療法に触れ卒後の臨床スタイルの参考とし、柔軟な発想と幅広い視野を養うことを目標とする。	3通	90	2			○	○		○		
○		臨床実習	2年次までに習得した知識・技術を広く応用させ、あはき臨床に必要な患者―治療者関係の構築をはかりながら、ベッドサイドニングの基本である問題抽出力および問題解決能力を身につけることを目標とする。	3通	90	2			○	○			○	
○		総合学習Ⅰ	あはき師免許取得に向けてこれまでに学習してきた内容を科目ごとに整理し、定着させる。	3後	45	3	○			○		○		
○		総合学習Ⅱ	3年間で学んだ知識、技術について総合的に確認する。あはき師国家試験に関する科目の定着度、あん摩マッサージ指圧実技の習得度、鍼灸実技の習得度について確認する。	3後	15	1	○			○		○		
○		OSCEⅠ	客観的臨床能力試験（OSCE）において、見学者や患者役等を行うことで本校における臨床教育の到達目標について学び、自ら取り組むべき課題を抽出することを目的とする。	1前	15	1		○		○		○		
○		OSCEⅡ	客観的臨床能力試験（OSCE）において、見学者や患者役等を行うことで本校における臨床教育の到達目標について学び、自ら取り組むべき課題を抽出することを目的とする。	2前	15	1		○		○		○		

○			OSCEⅢ	各ステーションにおける課題を遂行し、現在の臨床技能を形成的に評価することで、各自が今後取り組むべき要素を明確にすることを目的とする。	3 前	15	1		○		○		○		
○			体験学習Ⅰ	臨床に関連した事を修得する上で、自らが鍼灸・あん摩マッサージ指圧の治療を体験・見学することによって、治療技術や患者に接する上での、基本的態度を養うことを目標とする。	1 通	30	2		○		○	○	○		
○			体験学習Ⅱ	2人1組のペアで治療院へ行き施術者と共にダイレクトにディスカッションをするベッドサイドラーニングにより、自己の目指す臨床家像をより明確化し、今後学習を進めていく上での目標と臨床への取り組みを再確認する	3 前	15	1		○		○	○	○		
合計				56科目	2705単位時間( 96単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・学則に定められた学習の評価および単位の認定条件（既修得単位の認定含む）をクリアしていること、並びに細則に定められている授業科目の評価で全科目に合格していること ・学費を全て納入していること		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	19週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。